


えだまめ (ハウス半促成栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 25,000 本/10a
 4 目標収量 900kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ハウス半促成栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
ハウス半促成栽培												
施肥		●										
主要作業名		播基 種肥	定植・ トンネル	トンネル 除去	収穫							

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	2月下旬	5	15	12	高度化成
追肥		—	—	—	
計		5	15	12	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。

えだまめ (トンネル栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 22,000～25,000 本/10a
 4 目標収量 900kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トンネル栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥			●									
主要作業名			播基定 種肥植 ・トンネル		トンネル 除去	収 穫						

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	3月中旬	5	15	12	高度化成
追肥		—	—	—	
計		5	15	12	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。

えだまめ (マルチ栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 22,000～25,000 本/10a
 4 目標収量 900kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マルチ栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥				●								
主要作業名				播基定 種肥植		収 穫						

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	4月中旬	3	15	12	高度化成
追肥		—	—	—	
計		3	15	12	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 露地栽培では、基肥主体とする。
- (8) 追肥は、草勢を見ながら開花期までに 1～2 回施用し、1 回の窒素施用量は 2kg/10a 程度とする。

さやいんげん (つる有り、ハウス半促成栽培)

- 1 対象地域 安房地域、上総地域
 2 土 壌 第三系粘質土、河成壤質土
 3 栽植密度 2,500本/10a
 4 目標収量 2,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ハウス半促成 栽培加温型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
ハウス半促成 栽培加温型												
施肥		●		●	●	●						
主要作業名		播基定 種肥植 ・加 温	摘 心	追 肥	収整 穫始 め・摘 葉 追 肥	追 肥	収 穫 終 わ り					

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	2月中旬	20	20	20	高度化成
追肥	4月中旬	2	2	2	高度化成
	5月中旬	2	2	2	高度化成
	6月上旬	2	2	2	高度化成
計		26	26	26	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 堆肥を施用する場合は、植え付けの 1 か月以上前とする。
- (8) 基肥は植え付けの 7 日前までに施用すればよい。
- (9) 追肥は開花期～収穫始期より開始する。

さやいんげん (つる有り、トンネル栽培)

- 1 対象地域 安房地域、上総地域
 2 土 壌 第三系粘質土、河成壤質土
 3 栽植密度 2,500本/10a
 4 目標収量 1,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トンネル栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥			●		●	●	●					
主要作業名			播基定 種肥植・トンネル	トンネル除去	追肥	収追摘 穫始肥葉 め	追収 穫終 わり					

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	3 月 中 旬	15	20	15	高度化成
追 肥	5 月 中 旬	3	2	3	高度化成
	6 月 中 旬	3	2	3	高度化成
	7 月 上 旬	3	2	3	高度化成
計		24	26	24	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 堆肥を施用する場合は、植え付けの 1 か月以上前とする。
- (8) 基肥は植え付けの 7 日前までに施用すればよい。
- (9) 追肥は開花期～収穫始期より開始する。

さやいんげん (つる有り、マルチ栽培)

- 1 対象地域 安房地域、上総地域
 2 土 壌 第三系粘質土、河成壤質土
 3 栽植密度 2,500本/10a
 4 目標収量 1,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マルチ栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥			●		●	●	●					
主要作業名			播基 種肥・ マルチ	定 植		追 肥	収 獲 始 め	追 肥	摘 葉 肥	追 肥	収 獲 終 わ り	

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	3 月 下 旬	15	20	15	高度化成
追 肥	5 月 下 旬	4	3	4	高度化成
	6 月 中 旬	4	3	4	高度化成
	7 月 上 旬	4	3	4	高度化成
計		27	29	27	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 堆肥を施用する場合は、植え付けの 1 か月以上前とする。
- (8) 基肥は植え付けの 7 日前までに施用すればよい。
- (9) 追肥は開花期～収穫始期より開始する。

さやえんどう (マルチ栽培)

- 1 対象地域 安房地域
 2 土 壌 海成砂質土
 3 栽植密度 1,500 株/10a
 4 目標収量 500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
マルチ栽培												
施肥		●					●	●				
主要作業名		基肥・マルチ 播種		支柱			追肥	追肥 収穫始め		収穫終わり		

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	10 月上旬	6	12	6	緩行性肥料
追 肥	3 月中旬	2	1	2	高度化成
	4 月中旬	2	1	2	高度化成
計		10	14	10	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 追肥として、液肥の葉面散布 (2～3 回) を実施してもよい。

そらまめ (トンネル栽培)

- 1 対象地域 九十九里地域
 2 土 壌 海成砂質土
 3 栽植密度 1,500~1,600 株/10a
 4 目標収量 1,300kg/10a
 5 栽培型と主な作業

月旬	9		10		11		12		1		2		3		4		5		6		7		8		
	上中下		上中下		上中下		上中下		上中下		上中下		上中下		上中下		上中下		上中下		上中下		上中下		
栽培型	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; padding: 10px;"> トンネル栽培 </div>																								
施肥			●						●	●															
主要作業名			播種	基礎肥植・マルチ					トンネル	追肥	追肥・整枝		トンネル												

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	11月上旬	9	20	9	緩効性肥料、単肥
追肥	2月下旬	3	2	3	高度化成
	3月中旬	3	2	3	高度化成
計		15	24	15	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0~6.5 に矯正する。

そらまめ (マルチ栽培)

- 1 対象地域 富津地域、安房地域
 2 土 壌 第三系粘質土
 3 栽植密度 1,300本/10a
 4 目標収量 1,300kg/10a
 5 栽培型と主な作業

月旬	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
マルチ栽培												
施肥		●				●	●					
主要作業名		基播 肥種 ・ マルチ	定植			追肥	整追 枝肥		収穫始め	収穫終わり		

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	10月上旬	8	16	8	緩効性肥料、単肥
追肥	2月下旬	2	1	1	高度化成
	3月下旬	2	1	1	高度化成
計		12	18	10	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。

スイートコーン（ハウス半促成栽培）

- 1 対象地域 九十九里地域、北総地域
 2 土 壌 海成砂質土、火山灰土
 3 栽植密度 4,500本/10a
 4 目標収量 1,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

月旬 栽培型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
ハウス 半促成栽培												
施肥	●		●	●								
主要作業名	基肥・トンネル 播定 種植		追肥	追肥	収穫							

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	1月下旬	23	30	23	緩効性肥料、有機質肥料
追肥	3月下旬	3.5	—	3.5	NK化成
	4月下旬	3.5	—	3.5	NK化成
計		30	30	30	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14 ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78 ページ及び 401～404 ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40 ページ及び 450～459 ページ参照）。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 火山灰土では、施肥量を 20% 程度減らす。

スイートコーン（トンネル栽培）

- 1 対象地域 九十九里地域、北総地域
 2 土 壌 海成砂質土、火山灰土
 3 栽植密度 4,500本/10a
 4 目標収量 1,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

月旬	栽培型											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
トンネル栽培												
施肥		●			● ●							
主要作業名		基肥・マルチ	播種・トンネル 換気開始	四方換気・トンネル除去	追肥	追肥	収穫					

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	2月下旬	23	30	23	緩効性肥料、有機質肥料
追肥	5月上旬	3.5	—	3.5	NK化成
	5月下旬	3.5	—	3.5	NK化成
計		30	30	30	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14 ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78 ページ及び 401～404 ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40 ページ及び 450～459 ページ参照）。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 火山灰土では、施肥量を 20%程度減らす。

スイートコーン（マルチ栽培）

- 1 対象地域 九十九里地域、北総地域
 2 土 壌 海成砂質土、火山灰土
 3 栽植密度 4,500本/10a
 4 目標収量 1,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
栽培型	○—————□											
マルチ栽培												
施肥			●		●	●						
主要作業名			基肥・マルチ	播種	追肥	追肥	収穫					

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	3月下旬	20	27	20	緩効性肥料、有機質肥料
追肥	5月中旬	3.5	—	3.5	NK化成
	6月中旬	3.5	—	3.5	NK化成
計		27	27	27	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44ページ、47～51ページ及び417～424ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78ページ及び401～404ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24ページ、52～62ページ、400～404ページ及び409～416ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40ページ及び450～459ページ参照）。
- (6) 土壌pHを6.0～6.5に矯正する。
- (7) 火山灰土では、施肥量を20%程度減らす。

キャベツ (秋冬どり栽培)

- 1 対象地域 北総地域、東総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 4,200~4,500 株/10a
 4 目標収量 4,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋冬どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥								●		● ●		
主要作業名								播種 基肥・畝立て	定植	追肥 追肥 ・中耕 ・土寄せ	収穫始め	収穫終わり

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	8月下旬	19	25	19	高度化成、単肥
追肥	10月上旬	4	1	2	高度化成
	10月下旬	4	1	2	高度化成
計		27	27	23	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。

キャベツ (環境保全型秋冬どり栽培ーセル内施肥)

- 1 対象地域 北総地域、東総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 4,200~4,500 株/10a
 4 目標収量 4,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
秋冬どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥						●●						
主要作業名						播種・セル内施肥	基肥	定植				

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
セル内基肥	播種時	9	—	—	セル成型トレイ内に基肥窒素として専用肥料を 600g/L 培養土
基肥	9月上旬	—	26	20	単肥
計		9	26	20	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。
- (6) セル育苗時の育苗培養土の温度が上がりすぎると、肥料溶出による障害が発生するため、8月下旬以降の播種とする。

キャベツ (環境保全型秋冬どり栽培一条施肥)

- 1 対象地域 県内全域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 4,200~4,500本/10a
 4 目標収量 5,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
秋冬どり栽培	○ — ○ — 											
施肥								●				
主要作業名								播種 基肥・畝立て・ずらし	定植	中耕・土寄せ	収穫始め	収穫終わり

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	8月下旬	14	14	14	条施肥畝立て機等を用い、高度化成または緩効性肥料を畝の上部へすじ状に施肥する。
追肥		—	—	—	
計		14	14	14	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。

キャベツ (春どり栽培)

- 1 対象地域 東総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 4,200~4,500 株/10a
 4 目標収量 4,200kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
春どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥				●			●					
主要作業名			播種	基肥植・畝立て	中耕・土寄せ		追肥	収穫始め	収穫終わり			

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	11月上旬	13	19	13	低度化成、単肥
追肥	2月下旬	4	1	2	高度化成
計		17	20	15	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。
- (6) 追肥は、結球開始前に施用する。

キャベツ (環境保全型春どり栽培—セル内施肥)

- 1 対象地域 東総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 4,200~4,500本/10a
 4 目標収量 5,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
春どり栽培												
施肥		●										
主要作業名		セル内施肥・播種 畝立て・定植		中耕・土寄せ				収穫始め	収穫終わり			

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
セル内施肥	9月上旬	9	20	15	肥料成分の少ない培養土1Lに対し、被覆肥料を600g混和する。これにより本ぼへの窒素持ち込み量は9kg/10aに相当する。本ぼへの基肥は施用しない。
追肥		—	—	—	
計		9	20	15	

7 施用上の留意事項

- (1) りん酸・加里については、牛ふん堆肥で代替が可能である。
- (2) セル成型育苗には、128穴セルトレイを使用する。
- (3) セル内基肥に用いる被覆肥料は、初期30日間は溶出抑制され、その後は速やかに溶出するタイプを用いる。
- (4) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44ページ、47~51ページ及び417~424ページ参照)。

キャベツ (環境保全型初夏どり栽培ーセル内施肥)

- 1 対象地域 北総地域、東総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 4,200~4,500 株/10a
 4 目標収量 4,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
初夏どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥				●		●						
主要作業名				播種・セル内施肥		基定中肥植耕・土寄せ	中耕・土寄せ	収穫始め	収穫終わり			

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
セル内施肥	1 月中旬	9	—	—	セル成型トレイ内に基肥窒素として専用肥料を 600g/L 培養土
基肥	3 月上旬	—	20	15	単肥
計		9	20	15	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。

カリフラワー（秋どり栽培）

- 1 対象地域** 安房地域
2 土 壤 第三系粘質土
3 栽植密度 2,800～3,700本/10a
4 目標収量 2,000kg/10a
5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
秋どり栽培												
施肥		●	●	●								
主要作業名	播種	基肥	定植	追肥・中耕・培土	追肥・中耕	収穫始め		収穫終わり				

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	7月下旬 (定植7日前)	18	25	18	緩効性肥料
追肥	8月下旬	5	—	5	NK化成
	9月下旬	5	—	5	NK化成
計		28	25	28	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44ページ、47～51ページ及び417～424ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78ページ及び401～404ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24ページ、52～62ページ、400～404ページ及び409～416ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40ページ及び450～459ページ参照）。
- (6) 土壌のpHを6.0～6.5に矯正する。
- (7) 活着後は、早めに追肥の施用と土寄せを行い生育の促進を図る。
- (8) 生育初期の窒素・りん酸欠乏はボトニングを引き起こしやすいので、肥切れに注意する。

カリフラワー（冬どり栽培）

- 1 対象地域 安房地域
 2 土 壌 第三系粘質土
 3 栽植密度 2,800～3,000本/10a
 4 目標収量 2,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
冬どり栽培												
施肥		●		●	●	●						
主要作業名	播種	基定肥植		追肥 中耕 培土	追肥	追肥	収穫始め		収穫終わり			

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	8月上旬 (定植7日前)	18	25	18	緩効性肥料
追肥	10月中旬	4	—	4	NK化成
	11月中旬	4	—	4	NK化成
	12月中旬	4	—	4	NK化成
計		30	25	30	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44ページ、47～51ページ及び417～424ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78ページ及び401～404ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24ページ、52～62ページ、400～404ページ及び409～416ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40ページ及び450～459ページ参照）。
- (6) 土壌のpHを6.0～6.5に矯正する。
- (7) 3～4月どり中・晩生種では、草勢に応じて1～2月に窒素、加里各5kg/10aを追肥する。

ブロッコリー（秋冬どり栽培）

- 1 対象地域 県内全域
 2 土 壌 第三系粘質土、河成壤質土、火山灰土
 3 栽植密度 3,700～4,500 本/10a
 4 目標収量 1,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
秋冬どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
秋冬どり栽培												
施肥	●	●										
主要作業名	播基 種肥	定植	追肥 中耕 培土	収穫 始め				収穫 終わり				

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	8月下旬 (定植7日前)	18	25	18	緩効性肥料
追肥	9月下旬	4	—	4	高度化成
計		22	25	22	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14 ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78 ページ及び 401～404 ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40 ページ及び 450～459 ページ参照）。
- (6) 土壌の pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 2～3 月どり中・晩生種では、草勢に応じて 11～12 月に窒素、加里各 5 kg/10a を追肥する。

ね ぎ (秋冬どり栽培)

- 1 対象地域 九十九里地域、東葛飾地域
 2 土 壌 海成砂質土、火山灰土
 3 栽植密度 37,000～56,000 株/10a
 4 目標収量 4,000 kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
秋冬どり栽培			○	○	○	○							
施肥			●			●	●	●	●				
主要作業名		収穫終わり	基肥	定植		追肥・土寄せ	追肥・土寄せ	追肥・土寄せ	追肥・土寄せ	収穫始め			

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	4月下旬	3	17	3	有機質肥料、緩効性肥料、単肥
追肥	7月上旬	3	3	3	高度化成、緩効性肥料
	8月中旬	3	3	3	高度化成、緩効性肥料
	9月中旬	3	3	3	高度化成、緩効性肥料
	10月中旬	4	4	4	高度化成、緩効性肥料
計		16	30	16	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 基肥は、堆肥、有機質肥料、単肥、苦土石灰を全面施用、耕耘し、定植時に緩効性肥料 3 kg/10a を植溝に施用する。
- (7) 可給態りん酸含量の少ない火山灰土では、りん酸施用量を増やす。
- (8) 年明け以降に収穫する場合は、11月中旬に追肥を行う。
- (9) チェーンポット等のセル成型の利用では、土壌有機物が不足するので、堆肥施用、緑肥の作付けを行う。
- (10) 新規造成畑では、基肥施肥量を、窒素 10 kg/10a、りん酸 17 kg/10a、加里 6 kg/10a 程度とする。

ね ぎ (夏どり栽培)

- 1 対象地域 北総地域、東葛飾地域、九十九里地域
 2 土 壌 火山灰土、海成砂質土
 3 栽植密度 50,000～60,000 株/10a
 4 目標収量 3,500 kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
夏どり栽培													
施肥					●			●	●	●	●		
主要作業名		播種			基肥植・トンネル		トンネル除去	追肥・土寄せ	追肥・土寄せ	追肥・土寄せ	追肥・土寄せ	追収始め 追肥・土寄せ	収穫終わり

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	2月上旬	8	21	5	有機質肥料、緩効性肥料、単肥
追肥	4月上旬	4	4	4	高度化成、緩効性肥料
	4月下旬	4	4	4	高度化成、緩効性肥料
	5月中旬	4	4	4	高度化成、緩効性肥料
	6月上旬	4	4	4	高度化成、緩効性肥料
計		24	37	21	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 基肥は、堆肥、有機質肥料、単肥、苦土石灰を全面施用、耕耘し、定植時に緩効性肥料 6 kg/10a 程度を植溝に施用する。
- (7) チェーンポット等のセル成型苗利用では、土壌有機物が不足するので、堆肥施用、緑肥の作付けを行う。

ね ぎ (坊主知らず栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域、北総地域
 2 土 壌 火山灰土、河成壤質土
 3 栽植密度 6,000～8,000 株/10a
 4 目標収量 6,000 kg/10a
 5 栽培型と主な作業

月旬	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
栽培型												
坊主知らず栽培												
施肥	●●				●		●	●				●
主要作業名	追肥・土寄せ	追肥・土寄せ	収穫始め 株分け・仮植	収穫終わり		基肥	定植	追肥・土寄せ	追肥・土寄せ			追肥・土寄せ

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	8月上旬	5	16	4	有機質肥料、緩効性肥料、単肥
追肥	10月上旬	7	7	7	高度化成
	11月中旬	4	4	4	高度化成、緩効性肥料
	3月中旬	3	3	3	緩効性肥料
	4月上旬	3	3	3	緩効性肥料
	4月中旬	3	3	3	緩効性肥料
計		25	36	24	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 仮植床の施肥量は、窒素 10 kg/10a、りん酸 10 kg/10a、加里 10 kg/10a とする。
- (7) 基肥は、堆肥、有機質肥料、単肥、苦土石灰を全面施用、耕耘し、定植時に緩効性肥料 3 kg/10a 程度を植溝に施用する。

ね ぎ (環境保全型秋冬どり栽培-チェーンポット内施肥)

- 1 対象地域 県内全域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 42,000～53,000 本/10a
 4 目標収量 3,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
秋冬どり栽培												
施肥	●	●										
主要作業名	チェーンポット内施肥・播種	ほ場基肥	定植		土寄せ	土寄せ	土寄せ	土寄せ	収穫始め			

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
チェーンポット内基肥	播種時	12	—	—	チェーンポット内に基肥窒素として専用被覆肥料 608g/苗箱 (培養土 4.5L)
基肥	4月下旬	—	30	22	ほ場に基肥としてりん酸と加里を施用 PK化成、りん酸質肥料
計		12	30	22	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 専用被覆肥料は、被覆磷硝安 140 日タイプが適する。
- (7) 被覆磷硝安 140 日タイプは、初期 40 日間で温度が 25℃一定で窒素が 3%溶出する。従って、育苗時は高温 (25℃以上) にしない。

わけねぎ(冬どり栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域
 2 土 壌 火山灰土、河成壤質土
 3 栽植密度 6,200株/10a
 4 目標収量 2,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
冬どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥	●			●								
主要作業名	基肥	株分け・定植	中耕	追肥・中耕	土寄せ	収穫始め			収穫終わり			

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	7月下旬	15	18	15	有機質肥料、緩効性肥料
追肥	10月上旬	8	8	8	低度化成
計		23	26	23	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する(32～44ページ、47～51ページ及び417～424ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する(14ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する(63～78ページ及び401～404ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する(20～24ページ、52～62ページ、400～404ページ及び409～416ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する(37～40ページ及び450～459ページ参照)。
- (6) 土壌のpHを6.0～6.5に矯正する。
- (7) 基肥は植溝に施用する。
- (8) 追肥は肥切れしないよう生育状況をみながら施用する。
- (9) 河成壤質土では、窒素及び加里の施用量を20%減らす。

わけねぎ (夏どり栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域
 2 土 壌 火山灰土、河成壤質土
 3 栽植密度 6,200株/10a
 4 目標収量 2,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
夏どり栽培													
施肥		●				●							
主要作業名		基肥	株分け・定植	中耕	追肥・中耕	土寄せ	収穫始め		収穫終わり				

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	12月下旬	12	20	10	有機質肥料、緩効性肥料
追肥	3月下旬	8	8	8	低度化成
計		20	28	18	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌の pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 基肥は植溝に施用する。
- (8) 追肥は肥切れしないよう生育状況をみながら施用する。
- (9) 河成壤質土では、窒素及び加里の施用量を 20%減らす。

たまねぎ (マルチ栽培)

- 1 対象地域 九十九里地域
 2 土 壌 海成砂質土
 3 栽植密度 31,700 株/10a
 4 目標収量 6,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
マルチ栽培												
施肥			●			●	●	●				
主要作業名		播種	間引き	基肥	定植		追肥	追肥	追肥	収穫始め	収穫終わり	

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	10月下旬	15	25	15	有機質肥料、緩効性肥料、単肥
追肥	1月中旬	3	—	3	NK化成
	2月中旬	3	—	3	NK化成
	3月中旬	3	—	3	NK化成
計		24	25	24	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 苗床の施肥量は、窒素 15kg/10a、りん酸 15kg/10a、加里 15kg/10a とし、間引き後、窒素 3kg/10a、加里 3kg/10a を追肥する
- (7) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (8) 高度化成は、年内の生育を進め抽苔率を高めるので基肥では用いない。

たまねぎ (葉たまねぎトンネル栽培)

- 1 対象地域 九十九里地域
 2 土 壌 海成砂質土
 3 栽植密度 31,700 株/10a
 4 目標収量 4,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
トンネル栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥		●	●	●	●							
主要作業名	播種	間引き	基肥	定植	追肥	追肥	トンネル追肥	収穫始め		収穫終わり		

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	9月下旬	15	25	15	有機質肥料、緩効性肥料、単肥
追肥	10月下旬	3	—	3	NK化成
	11月下旬	3	—	3	NK化成
	12月下旬	3	—	3	NK化成
計		24	25	24	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 苗床の施肥量は、窒素 15kg/10a、りん酸 15kg/10a、加里 15kg/10a とし、間引き後、窒素 3kg/10a、加里 3kg/10a を追肥する
- (7) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (8) りん酸や石灰が不足すると、生育が停滞し、品質が低下するので注意する。

に ら (ハウス栽培)

- 1 対象地域 北総地域、上総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 8,000本/10a
 4 目標収量 3,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ハウス栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥				●	●	●			●●	●●	●●	●●
主要作業名	一期収穫始め	播種	二期収穫終わり	追肥・一期収穫終わり	追肥 土壌消毒	基肥 肥植			追肥	追肥	追肥 二期収穫始め	追肥

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期	窒素	りん酸	加里	対応
株養成期	20	35	20	緩効性肥料 高度化成、有機配合
基肥 6月中旬	3	—	3	
追肥 9月上旬 ～11月中旬	×5回			
小計	35	35	35	
収穫1年目	3	10	3	高度化成、有機配合 高度化成、有機配合 高度化成、有機配合
追肥 4月上旬	3	—	3	
5月中旬	3	—	3	
9月上旬 ～11月上旬	×4回			
小計	18	10	18	
計	53	45	53	

7 施用上の留意事項

- (1) 播種床の㎡当たりの施肥量は、窒素8g、りん酸8g、加里8gとする。
- (2) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び417～424 ページ参照)。
- (3) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (4) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び401～404 ページ参照)。
- (5) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び409～416 ページ参照)。
- (6) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び450～459 ページ参照)。
- (7) 土壌pHを6.0～6.5に矯正する。

に ら (トンネル栽培)

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 8,000本/10a
 4 目標収量 3,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
トンネル栽培													
施肥				●	●	●			●●	●●	●●	●●	
主要作業名	一期収穫始め 二期収穫終わり	播種	追肥・二期収穫終わり		追肥 土壌消毒	基肥 肥植			追肥	追肥	追肥・トンネル	追肥 追肥	一期トンネル

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期	窒素	りん酸	加里	対応
株養成期	20	35	20	緩効性肥料 高度化成、有機配合
基肥 6月中旬	3	—	3	
追肥 9月上旬 ～11月中旬	} × 5回			
小計	35	35	35	
収穫1年目	3	10	3	高度化成、有機配合 高度化成、有機配合 高度化成、有機配合
追肥 4月上旬	3	—	3	
5月中旬	3	—	3	
9月上旬 ～11月上旬	} × 5回			
小計	21	10	21	
計	56	45	56	

7 施用上の留意事項

- (1) 播種床の㎡当たりの施肥量は、窒素8g、りん酸8g、加里8gとする。
- (2) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び417～424 ページ参照)。
- (3) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (4) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び401～404 ページ参照)。
- (5) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び409～416 ページ参照)。
- (6) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び450～459 ページ参照)。
- (7) 土壌pHを6.0～6.5に矯正する。

に ら (露地栽培)

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 6,800本/10a
 4 目標収量 3,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地栽培												
施肥			●	●	●	●				●		
主要作業名			追播 肥種	追肥 ・捨て刈り	収穫 始め	定植 ・追肥				追収 種終わり		

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	5月下旬	20	35	10	緩効性肥料
追肥	10月上旬	2	5	1	高度化成、有機配合
	3月中旬	2	5	1	高度化成、有機配合
	4月下旬	2	5	1	高度化成、有機配合
	6月上旬	2	5	1	高度化成、有機配合
計		28	55	14	

7 施用上の留意事項

- (1) 播種床の㎡当たり施肥量は、窒素8g、りん酸8g、加里8gとする。
- (2) 施肥の環境負荷を考慮する(32～44ページ、47～51ページ及び417～424ページ参照)。
- (3) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する(14ページ参照)。
- (4) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する(63～78ページ及び401～404ページ参照)。
- (5) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する(20～24ページ、52～62ページ、400～404ページ及び409～416ページ参照)。
- (6) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する(37～40ページ及び450～459ページ参照)。
- (7) 土壌pHを6.0～6.5に矯正する。

らっきょう (露地栽培)

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壤 火山灰土
 3 栽植密度 16,000～17,000 株/10a
 4 目標収量 2,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地栽培	◎ 												
施肥	●	●	●					●		●			
主要作業名	基植 付け	追肥・中 耕・土寄せ	追肥・中 耕・土寄せ					追肥・中 耕・土寄せ		追肥・中 耕・土寄せ		収穫 始め	収穫 終わり

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	8月上旬	8	15	8	緩効性肥料、単肥
追肥	9月中旬	3	3	3	高度化成
	10月中旬	3	3	3	高度化成
	2月下旬	3	3	3	高度化成
	4月上旬	3	3	3	高度化成
計		20	27	20	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5～6.0 に矯正する。
- (7) 9 月と 10 月の追肥は分球促進のため施用し、2 月と 4 月の追肥は球の肥大促進のため施用する。
- (8) 追肥は、4 月中旬以降は施用しない。

らっきょう (軟化らっきょう栽培)

- 1 対象地域** 九十九里地域
2 土 壤 海成砂質土
3 栽植密度 14,000 本/10a
4 目標収量 1,400kg/10a
5 栽培型と主な作業

月旬	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
軟化らっきょう栽培												
施肥	●	●	●	●								
主要作業名	基植 付肥	追肥	追肥	追肥	収穫 始め						収穫 終わり	

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	7月中旬	25	38	25	緩効性肥料、単肥
追肥	8月中旬	5	—	5	NK化成
	9月中旬	5	—	5	NK化成
	10月中旬	5	—	5	NK化成
計		40	38	40	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5～6.0 に矯正する。

にんにく（露地栽培）

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 2,800~3,700 株/10a
 4 目標収量 1,100kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地栽培												
施肥		●					●	●				
主要作業名		基肥・植付け		芽土寄せ			追肥・土寄せ	追肥・土寄せ		収穫（青果用）	収穫（貯蔵用）	

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	9月中旬	10	25	10	
追肥	2月下旬	5	5	5	高度化成
	3月下旬	5	5	5	高度化成
計		20	35	20	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14 ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63~78 ページ及び 401~404 ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37~40 ページ及び 450~459 ページ参照）。
- (6) 土壌 pH を 5.5~6.0 に矯正する。

レタス (トンネル冬どり栽培)

- 1 対象地域 千葉中央地域、安房地域
 2 土 壌 第三系粘質土、河成壤質土、海成砂質土
 3 栽植密度 7,000本/10a
 4 目標収量 2,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
トンネル冬どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥					●							
主要作業名				播種	基肥・マルチ・定植	トンネル	収穫始め	収穫終わり				

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	11月上旬	24	22	22	硝酸化成抑制材入り化成肥料
追 肥		—	—	—	
計		24	22	22	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) ベッド施肥の場合は、窒素成分で 20% の減肥が可能である。
- (8) レタスは好アンモニア性窒素作物であるので、基肥には硝酸化成抑制材入りの肥料を用いる。
- (9) 雑草の発生を少なくするため、基肥・マルチは定植の前日に実施する。

レタス (トンネル春どり栽培)

- 1 対象地域 千葉中央地域、安房地域
 2 土 壌 第三系粘質土、河成壤質土、海成砂質土
 3 栽植密度 7,000本/10a
 4 目標収量 2,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

月旬	7		8		9		10		11		12		1		2		3		4		5		6	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
栽培型	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; height: 100px;"> <div style="text-align: center;">○</div> <div style="text-align: center;">◎</div> <div style="text-align: center;">∩</div> <div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px; margin-left: 20px;"></div> </div>																							
施肥	●																							
主要作業名					播種		基肥・マルチ・定植		トンネル		収穫始め		収穫終わり											

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	11月中旬	24	24	24	硝酸化成抑制材入り化成肥料
追肥		—	—	—	
計		24	24	24	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) ベッド施肥の場合は、窒素成分で 20% の減肥が可能である。
- (8) レタスは好アンモニア性窒素作物であるので、基肥には硝酸化成抑制材入りの肥料を用いる。
- (9) 雑草の発生を少なくするため、基肥・マルチは定植の前日に実施する。

レタス (秋どり栽培)

- 1 対象地域 千葉中央地域、安房地域
 2 土 壌 第三系粘質土、河成壤質土、海成砂質土
 3 栽植密度 7,000 株/10a
 4 目標収量 2,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
秋どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥				●								
主要作業名				播種	基肥・マルチ	定植	収穫始め	収穫終わり				

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	9月下旬	20	20	20	硝酸化成抑制材入り化成肥料
追肥		—	—	—	
計		20	20	20	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) ベッド施肥の場合は、窒素成分で 20 % の減肥が可能である。
- (8) レタスは好アンモニア態窒素作物であるので、基肥には硝酸化抑制材入りの肥料を用いる。
- (9) 雑草の発生を少なくするため、基肥・マルチは定植の前日に実施する。

リーフレタス（秋冬どり栽培）

- 1 対象地域 県内全域
 2 土 壌 火山灰土、第三系粘質土、河成壤質土
 3 栽植密度 7,000 株/10a
 4 目標収量 2,000～2,200kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
秋冬どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥				●								
主要作業名			播種	基肥植	トンネル	収穫始め		収穫終わり				

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	10月中旬旬	20	16	16	低度化成
追肥		—	—	—	
計		20	16	16	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14 ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78 ページ及び 401～404 ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40 ページ及び 450～459 ページ参照）。

チンゲンサイ（夏播秋どり栽培、秋播冬どり栽培）

- 1 対象地域 東葛飾地域、東総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 13,200～19,200本/10a
 4 目標収量 2,000～3,200kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
夏播秋どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
秋播冬どり栽培												
施肥				●			●					
主要作業名				基肥	播種		収穫	基肥	播種	定植	収穫	

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	7月下旬 (夏播秋どり)	8	10	8	緩効性肥料、有機質肥料
	10月下旬 (秋播冬どり)				
追肥		—	—	—	
計		8	10	8	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44ページ、47～51ページ及び417～424ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78ページ及び401～404ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24ページ、52～62ページ、400～404ページ及び409～416ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40ページ及び450～459ページ参照）。
- (6) 有機質肥料は2週間以上前に施用する。

みずな

- 1 対象地域 県内全域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 50,000 株/10a
 4 目標収量 3,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地栽培												
施設栽培												
施肥			●							●		
主要作業名			基肥・播種		収穫					基肥・播種		収穫

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	3月下旬～ 10月上旬 (播種数日前)	10	10	10	高度化成
追肥		—	—	—	
計		10	10	10	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 小株収穫では施用量は 8 kg/10a 程度、大株で収穫する場合には 15kg/10a 程度の多目にする。
- (7) 施設栽培では露地栽培の 80%程度の施用量とする。